

## 2-3. 市原市

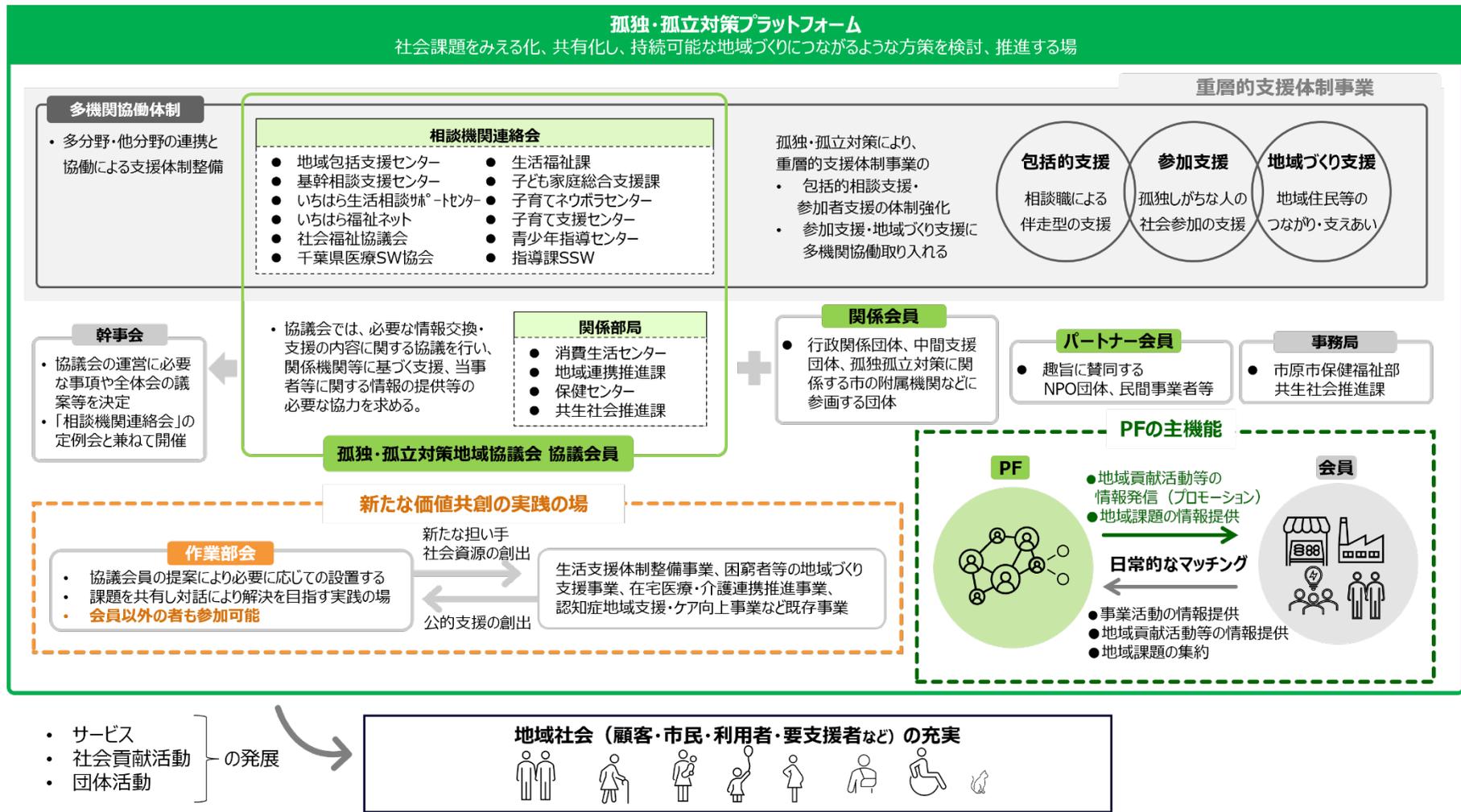
No.	3	市原市
-----	---	-----

1. 取組の全体像			
1. 自治体の概要			
①	自治体名	市原市	
②	担当部局名	保健福祉部 共生社会推進課	
③	人口	267,226(人) <令和6年10月/住民基本台帳>	
④	自治体内連携	庁内連携部局(メイン)	保健福祉部 共生社会推進課
		庁内連携内 ※会議体、情報共有	・孤独・孤立対策関係事業の実施
		庁内連携部局(メンバー)	市原市孤独・孤立対策地域協議会関係
		庁内連携内容 ※会議体、情報共有	・情報共有、ケース事例検討
2. 形成をめざす地方版連携 PF の姿			
①	従前の取組 ※重層の取組、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度から重層的支援体制整備事業を開始し包括的な相談支援体制やアウトリーチ支援体制を構築したが、支援機関との多機関協働や、社会参加の支援、地域づくりの支援において、取組の難しさがあった。</li> <li>令和4年度地方版孤独・孤立対策官民連携PF推進事業採択。伴走支援を受けながらPF体制整備について調査検討。</li> <li>孤独・孤立対策をきっかけに、福祉に留まらない多様なプレイヤーの参画を図るため、令和6年度に「市原市孤独・孤立対策地域協議会」及び「市原市孤独・孤立対策官民連携PF」を設置。</li> </ul>	
②	実現したい状態 ※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境	<p>今年度のゴール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立対策地域協議会の設置(初回5月)</li> <li>PF会議の開催(11月予定)</li> <li>地域福祉計画の改定作業(骨子まで)</li> </ul> <p>最終的なゴール</p> <p>社会課題をみえる化、共有し、解決に向けて共創する場 そのために以下の機能を実装</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立等の社会課題解決のための取組やノウハウの共有と意見交換</li> <li>孤独・孤立等の社会課題の解決に資するプロジェクトを提案し、会員等の自主的なプロジェクトを促進</li> <li>上記を目的とした多様な主体の交流・連携を図るためのネットワークを構築</li> <li>孤独・孤立等の社会課題の解決に係る施策検討、構成団体等へ支援の要請</li> </ul>	

3. 地方版連携 PF における連携体制			
①	地方版連携 PF (種類があれば)	立ち上げ年度	令和6年度
		参画メンバー	(関係会員)市が設置する他のPF又はネットワークのうち、孤独・孤立問題に関連があると見込まれるPF等に属する団体 (パートナー会員)孤独・孤立対策に関心が高く、PFの趣旨に賛同するNPO等
		選出・打診時の工夫	福祉を超えた連携を実現するため、市民活動、地方創生、都市計画、生涯学習等の異分野に積極的に接触。担当部署で連携実績がある団体等に取組趣旨を説明したり、連携事業を持ちかけた。
②	地域協議会 ※特に専門性の高い支援を行う団体等で構成	立ち上げ年度	令和6年度
		参画メンバー	介護、障がい、子育て、困窮等の相談支援機関で構成する「市原市相談機関連絡会」をベースに、成年後見、消費生活、健康、自殺対策、地域連携の分野を加えて構成
		選出・打診時の工夫	庁内横断的な会議体で協議体のあり方や接点を整理・提示した上で、会議内で協力を要請
4. PF 連携による価値や工夫 考え方			
<p>PF会議と協議会を連続する一体のものとして設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 孤独・孤立対策を、福祉以外の分野を取り込み、福祉分野との接点を増やす機会と捉える</li> <li>・ 協議会は、できるだけ、既存の資源を活用し、既存の会議体、既存のネットワークをベースに、機能を重ねた</li> <li>・ PFは、相談の中核を担う行政機関、民間の相談支援機関に、中間支援団体、NPO 団体、民間事業者等の関係会員、パートナー会員を加えた形で、福祉分野に留まらない多様な主体による取組の場を目指している</li> </ul> <p>社会課題に対し、地域活動団体、企業、福祉事業者の数だけ困り事やアイデア、ノウハウがあるものと捉え、課題とアイデアの組み合わせによる連携や解決方法を生み出す仕組みとして、PF を介したアクセスの機会を増やす</p>			

## 2. 連携 PF

### 5. 連携PFのイメージ図



3. 試行的事業一覧					
6. 本年度に取り組む試行的事業の概要					
試行的事業のポイント・工夫		<ul style="list-style-type: none"> <li>支援団体等の負担増にならない配慮</li> <li>実効性のある取組を持続するための仕組みの構築</li> </ul>			
	事業名称	事業内容	目的/期待効果・KPI	実施時期	発注先
①	福祉関係者合同研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>市原市社会福祉協議会が主催した「市原市地域福祉関係者合同研修会」の会場費を負担した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「居場所」に関する理解度の向上</li> </ul>	9月:準備・実施	公益財団法人市原市文化振興財団 (13万円)
			<b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者数 506 名(行政 16 名 民生・児童委員 311 名 地区社協・小域NW等 179 名)</li> <li>約 7 割の民生児童委員の参加</li> </ul>		
②	孤独・孤立対策 PF 会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>【業務内容】市民フォーラムを開催した(3時間)</li> <li>【対象】孤独・孤立対策 PF 会員等</li> <li>【形式】対面90名規模、後日オンライン配信予定</li> <li>【次第】</li> <li>開会あいさつ(市原市長)</li> <li>基調講演(順天堂大学 スポーツ健康科学部 松山 毅 氏)</li> <li>市からの報告</li> <li>ワークショップ、発表、講評</li> <li>閉会あいさつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立対策 PF に関わる様々な団体メンバーの意識啓発</li> <li>孤独・孤立対策に関する知識・情報の共有</li> <li>孤独・孤立対策 PF メンバー間での関係構築および連携強化</li> </ul>	9月-:準備 11月:実施	いちほら市民活動協議会 (80万円)
			<b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>フォーラム参加者数69名</li> <li>孤独・孤立に関する理解度:深まった 90.2%</li> <li>連携 PF への参画意向:興味あり 86.3%</li> <li>フォーラムへの満足度 98.0%</li> </ul>		
③	ゆるサポ®研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>【業務内容】地域のつながりづくりに係る研修を実施した(3時間)</li> <li>【対象】福祉の専門職</li> <li>【形式】対面20名規模</li> <li>【講師】淑徳大学 総合福祉学部 高梨 美代子氏</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域共生社会の理念や行動指針の啓発</li> </ul>	12月-:準備 2月:実施	淑徳大学 高梨氏 (3万円)
			<b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者数17名</li> <li>研修全体の満足度:満足 80.0%</li> <li>研修の理解度:深まった 86.6%</li> </ul>		

④	企画提案型 研修委託事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【業務内容】孤独・孤立対策PF会議作業部会(コミュニティラボ)を実施した(2時間)</li> <li>・【対象】こども食堂運営団体、こども食堂支援企業等</li> <li>・【形式】対面20名規模</li> <li>・【内容】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・開会あいさつ</li> <li>・WSの目的と流れの説明</li> <li>・シナリオとワークシートの説明</li> <li>・グループ討議</li> <li>・議論結果の共有と感想の共有</li> <li>・閉会</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域共生社会の理念や行動指針の啓発</li> <li>・こども食堂の「課題、アイデア、意見を可視化する」</li> <li>・こども食堂の課題解決方法について検討し、作業部会で見られた意見をこども未来キャラバンの実施内容に反映する</li> </ul>	12月-:準備 1月:実施	いちほら市民活動協議会 (市費:10万円) ※構成を事業内で検討
			<b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 参加者数 18名(こども食堂運営団体、地域団体、民間企業、子育て支援団体、NPO団体、お寺、社協、相談機関、大学、医療関係、行政)</li> <li>✓ 全体の満足度:大変満足 37.5%、満足 62.5%</li> </ul>		
⑤		<ul style="list-style-type: none"> <li>・【業務内容】こども未来キャラバンを実施する予定(5時間)</li> <li>・【形式】対面約500名規模</li> <li>・【内容】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども食堂フェスティバル、防災協定締結式、消防服着用体験、NTT 防災無線体験など</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な活動機会の創出</li> <li>・こども食堂・ちいき食堂の認知普及</li> <li>・防災意識の向上</li> </ul>	12月-:準備 3月:実施	Amity いちほら子供食堂 (120万円)
			<b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 参加者数:約800人(内 大人:300人、子ども:500人)</li> </ul>		

7. 次年度以降に向けた事業等の案 ※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を列挙

- ・ PF会議作業部会の本格的な展開
- ・ 重層的支援体制整備事業の新たな取り組み(オンライン合意形成システム、社会資源管理システム)との連携
- ・ 改定地域福祉計画への事業反映

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- ・ 研修会やフォーラムは盛況で、参加者の孤独・孤立対策に係る関心も確認できた。
- ・ 民間企業からの連携の提案があった。(協議中)
- ・ SNS で発信したところ従来の広報とは異なる反応が得られた。
- ・ 他自治体や各種団体の要望により説明を行った。

#### 4. 連携 PF の行程および実務上の留意点

##### 【PF 立ち上げから拡大までの行程】

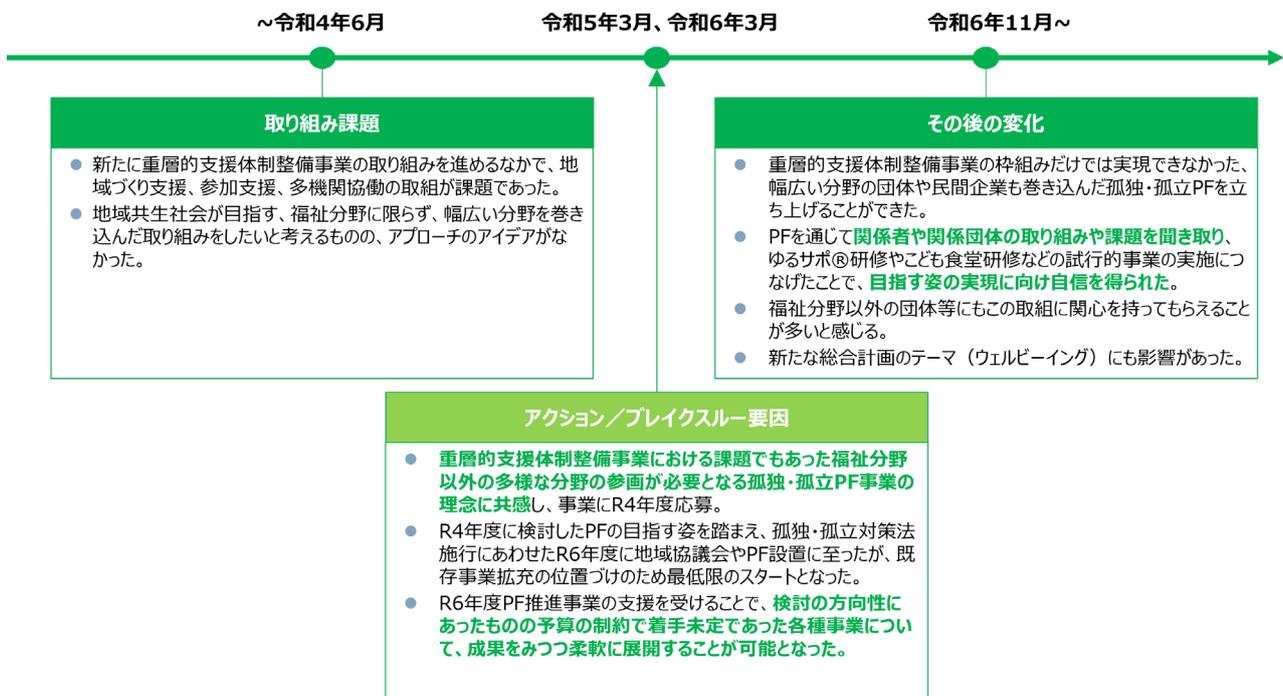
実務上の留意点				
連携 PF の行程	過年度	令和4年度: PF の基本的な考え方の検討 令和5年度: PF の立ち上げの準備	今年度	令和6年度:PF の立ち上げ
<b>(ア)初期段階</b>				
主担当部署の 設定	R4 年度 6月～	■重層的支援体制整備事業を所掌する「共生社会推進課・地域共生係」が担当	—	—
担当者の初動		■重層的支援体制整備事業や既存の会議体・ネットワークと、孤独・孤立対策の関係・つながりを整理	—	—
<b>(イ)準備段階</b>				
地域の 現状把握 取り組み	R4 年度 8月～	■庁内ヒアリングや関係者アンケートを通じて支援者側の困難を認識	—	—
テーマの設定	R5 年度 3月～	■PF を「社会課題を可視化・共有化し、みんなで解決する場」とする	—	—
連携 PF の 企画・設計	—	—	R6 年度 3月～	■中間支援団体などの関係団体に広く呼びかけ、PF 会議を構成した
関係団体の リストアップ (庁外)	—	—	R6 年度 4月～	■既存の会議体をベースに、不足する分野のメンバーに声掛け
関係団体の リストアップ (庁内)	—	—	R6 年度 4月～	■既存の PF やネットワークから孤独・孤立対策に親和性のある団体を抽出
<b>(ウ)設立段階</b>				
域内住民・団体 への情報発信	—	—	R6 年度 11月～	■オンライン・オフラインを問わず様々な啓発イベントを開催
連携 PF の 運営	—	—	R6 年度 11月～	■PF 内外の関係者がテーマ設定から課題解決まで行う作業部会の開催を行う
<b>(エ)自走段階</b>				
地域協議会の 設置	—	—	R6 年度 4月 1日	■層的支援体制事業の相談機関連絡会を基に地域協議会を設置
PF の 拡大・活性化	—	—	R7 年度 4月～	■オンライン合意形成PFの導入で、参加者の負担軽減を図る

【それぞれの段階での留意点】

(ア) 初期段階		
①	主担当部署の設定	■重層的支援体制整備事業を所掌する「共生社会推進課・地域共生係」が担当
②	担当者の初動	<p>■重層的支援体制整備事業や既存の会議体・ネットワークと、孤独・孤立対策の関係・つながりを整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重層的支援体制整備事業の取組と孤独・孤立対策の関係を整理した。</li> <li>・ 令和4年度地方版孤独・孤立対策官民連携PF推進事業に申請した。</li> <li>・ 既存の会議体・ネットワークによるつながりを活用し、既存事業との連続性に留意することで、新規事業の負担感が生じないように配慮した。</li> </ul>
(イ) 準備段階		
③	地域の現状把握	<p>■庁内ヒアリングや関係者アンケートを通じて支援者側の困難を認識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援機関と福祉以外の地域づくりに関わる部署担当者へヒアリング、重層的支援体制に関連する外部機関及び福祉関連 NPO に対するアンケートを通じ、ケースの実態を知るとともに要支援者を支援している側の困難を改めて認識した。</li> </ul>
④-1	取組テーマ決定	<p>■PFを「社会課題を可視化・共有化し、みんなで解決する場」とする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年事業で PF の基本的な考え方を検討し、令和6年事業で社会課題解決の取り組み、ノウハウの共有、意見交換を行い、支援者たちの交流・連携を図るためのネットワーク構築と定めた。</li> </ul>
④-2	連携 PF の企画・設計	<p>■中間支援団体などの関係団体に広く呼びかけ、PF 会議を構成した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種中間支援団体、孤独・孤立に関係する市の附属機関などに参画している団体などの関係会員や、PF 趣旨に賛同する NPO 団体、民間事業者などのパートナー会員にも広く協力を呼びかけ、PF 会議を構成した。</li> </ul>
⑤	関係団体のリストアップ初期メンバーへの声掛け	<p>■既存の会議体をベースに、不足する分野のメンバーに声掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中核となる会議体は、重層的支援体制整備事業における多機関協働のための既存の会議体をベースとし、不足する分野のメンバーを追加した。その際、会議開催を兼ねるなどして、負担増にならないように留意した。</li> <li>・ 全庁的な検討の場としては、地域福祉計画の進行管理のための庁内会議や、附属機関の所掌事務を加えることで対応した。</li> </ul>
		<p>■既存の PF やネットワークから孤独・孤立対策に親和性のある団体を抽出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な部署が所管する既存の PF やネットワークの活用に着目し、庁内各課の協力のもと庁内の既存 PF とその参加団体を洗い出した上で、孤独・孤立に親和性のある団体等を抽出した。</li> <li>・ 中間支援団体が持つ各種団体とのつながりを活用した関係団体のリストアップと声掛けを行った。</li> </ul>
(ウ) 設立段階		
⑥	域内住民・団体への情報発信	<p>■オンライン・オフラインを問わず様々な啓発イベントを開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 孤独・孤立対策については、シンポジウム、フォーラム、研修会など、オンライン・オフラインを問わず複数のイベントを開催し、啓発活動を行った。</li> <li>・ PF の広報については、今後発信の対象や内容の検討を進める予定である。</li> </ul>
⑦	連携 PF の運営	<p>■PF内外の関係者がテーマ設定から課題解決まで行う作業部会の開催を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PF 立ち上げを記念するフォーラム(11月)、試行版の作業部会(1月)を実施し、PF テーマの具体化に踏み出した。</li> <li>・ 作業部会の試行結果を基に、PF でテーマ設定から課題解決まで行えるような運営方法を検討する。</li> </ul>

(工)自走段階		
⑧	地域協議会の設置	<p>■層的支援体制事業の相談機関連絡会を基に地域協議会を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重層的支援体制事業の相談機関連絡会を基に、消費生活や自殺対策など必要だと考えた団体に個別の声掛けを行い、孤独・孤立対策地域協議会を設置した。</li> </ul>
⑨	PFの活性化	<p>■オンライン合意形成PFの導入で、参加者の負担軽減を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目指すPF運営が挑戦的な取組内容となっているため、やみくもに拡大を目指すことはせず、既存のネットワーク(紹介、企業版ふるさと納税、連携協定)を通じてじっくり理解・関心を高めていく。</li> <li>オンライン合意形成PFは、孤独・孤立対策PF以外の取組(ウェルビーイングなまちづくり)にも共同利用する予定であり、これにより分野横断的な孤独・孤立対策の理解促進を狙う。同時期に導入予定の社会資源管理システムを活用しPF会員の取組を共有する。</li> </ul>

ブレイクスルー要因		
	アクション/ ブレイクスルー要因	<p>■幅広い分野を巻き込める孤独・孤立PFの枠組みを活用し、関係者に丁寧な聞き取りを行ったことで、現場の課題に即した様々な試行的事業を実現した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重層的支援体制整備事業の取組を進めるなかで、地域共生社会が目指す、福祉分野に限らず、幅広い分野を巻き込んだ取組をしたいと考えるものの、アプローチのアイデアがないという状態だった。</li> <li>多様な分野の参画が必要となる孤独・孤立PF事業の支援を受けることで、検討の方向性にあったものの予算の制約で着手未定であった各種事業の展開することが可能となった。</li> <li>PFを通じて関係者や関係団体の取組みや課題を聞き取り、様々な試行的事業の実施につなげたことで、目指す姿の実現に向け自信を得られた。</li> </ul>



## コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携 PF の重要性～

### 特定非営利活動法人 いちはら市民活動協議会

- ・ 市原市で、主に市民活動を行う団体や個人の間接支援活動と、市民活動拠点ウエルシア・コミュニケーションセンターいちほら(通称ウエルコミ)の管理・運営を行っている。ウエルコミは、令和7年2月時点で約175団体が利用しており、月間2,000人ほどの利用者が訪れる。いちほら市民活動協議会は、ウエルコミを利用している幅広い領域の団体に対して、活動内容の広報や団体同士のマッチングなどの中間支援を行っている。
- ・ 令和4年から市原市と協力して孤独・孤立対策の取り組みを行っており、令和4年は「学校教育からの孤独・孤立」や「定年退職後の孤独・孤立」に関わるイベントを企画した。この2つの取り組みは、1度きりの開催にとどまらず、日本財団の助成により市内初の「子ども第三の居場所事業」の開設や、社会の第一線をリタイアした男性を主な対象にボランティア活動でやりがいを見つけてもらうきっかけを提供するイベント「グランパ・フェスタ」の定期的な開催につながっている。

#### 📍 **孤独・孤立 PF のネットワークによって市民活動団体と民間企業のマッチングが可能になれば、支援者の熱意によって成り立っている様々な活動を継続、拡大させることができる**

- ・ いちはら市民活動協議会は、幅広い領域で活動する様々な団体とその団体が活動していく上での困難や課題について話し合いを行っているが、それらの困難や課題は、活動領域が異なる団体間でも似通っているケースが多い。例えば、こども食堂を運営する団体とデイサービスを提供する団体は、既存の制度でカバーしきれない時間での対応や必要人数の補充を、ボランティアな活動で補っているという状況が共通している。支援者たちの熱意がなくなったときには、被支援者は孤独・孤立な状態に陥ってしまうため、支援者たちの活動の継続性のための金銭的なサポートが必要となる。
- ・ 市に頼らない独自の資金を持つことが理想である。市役所の取り組みは年度の縛りがあるため、市民活動の動きに合わないこともあるが、独自の資金を持って団体を支援することで、年度に縛られない補助金の使い方が可能になる。現在、理想を実現するために企業への働きかけを行っている段階であり、孤独・孤立対策 PF を通じて企業とつながりが生まれる可能性にも期待している。

#### 📍 **孤独・孤立対策 PF に求めるのは、市役所・市民活動団体双方の情報を可視化すること**

- ・ 複雑化する社会に対応するために、役所の窓口が横断的であることが大切である。団体が市民活動を始めたばかりの時は、個々の窓口が用意している制度や補助金などの利用で対応できることが多いが、団体の活動が成熟していくことで、複雑化・多様化している被支援者の状況に対応しようとすると、一つの窓口では完結しないことが多々ある。例えば、こども食堂について相談事がある際に、こども部局と貧困対策部局のどちらの窓口を利用すればいいのか判断が難しい。また複数の窓口とやり取りする必要がある際に、双方の情報共有ができておらず、市民活動団体が同じ説明を何度も繰り返さなくてはならないという事態が発生する。
- ・ また、役所が持っている市民活動団体の情報も不足している。団体名の一覧があっても、それぞれの活動領域の整理や、団体間の関係の整理ができていない状態にある。そのようなときには、団体の情報を理解している中間支援団体として、いちほら市民活動協議会が間を取り持っている。
- ・ 孤独・孤立対策 PF には、上記のような、役所側の窓口同士の担当領域整理・情報共有や、市民活動団体の情報整理・共有の機能を担ってもらえることを期待している。それによって、新たな活動が生まれるきっかけが増えたり、手続き疲れで市民活動をやめてしまう人を減少させることにつながる。



孤独・孤立の問題は制度の狭間にある社会的課題であることが多く、市民活動は元来その狭間を埋めるような働きをしてきたと言えます。さらに現代は社会課題そのものが複雑多様化しています。既存の制度や様々な主体を幅広く横断的に繋げられる孤独・孤立 PF は、私たちの団体にとって、この先の課題解決にピッタリの仕組みだと期待しています。新しい出会いとアイデアを生み出すこの孤独・孤立 PF を、もっと広め、深めていきましょう！

いちほら市民活動協議会

## 5.自治体等との打合せ記録一覧

No.	日時	打合せ相手団体	出席者	
			打合せ相手	NRI
1	8/6(火) 17:00-18:30	市原市役所 保健福祉部 共生社会推進課	山本様、 小倉様、安藤様	生駒、谷本、加藤
2	8/29(木) 13:00-14:30	市原市役所 保健福祉部 共生社会推進課	山本様、 小倉様、安藤様	生駒、谷本、加藤
3	9/25(水) 10:30-11:30	市原市役所 保健福祉部 共生社会推進課	山本様、 小倉様、安藤様	谷本、加藤
4	10/18(金) 17:00-18:00	市原市役所 保健福祉部 共生社会推進課	山本様、 小倉様、安藤様	谷本、加藤
		いはら市民活動協議会	小倉様	
5	11/8(金) 9:30-11:00	市原市役所 保健福祉部 共生社会推進課	山本様、 小倉様、安藤様	生駒、谷本、 加藤、陳
6	12/9(月) 15:00-16:30	市原市役所 保健福祉部 共生社会推進課	山本様、小倉様、 安藤様、戸田様	生駒、谷本、陳
7	1/10(木) 14:00-15:00	市原市役所 保健福祉部 共生社会推進課	山本様、小倉様、 安藤様、戸田様	生駒、谷本、陳
8	2/3(木) 16:00-17:00	市原市役所 保健福祉部 共生社会推進課	山本様、小倉様、 安藤様、戸田様	生駒、谷本、陳
9	2/26(水) 15:00-16:00	市原市役所 保健福祉部 共生社会推進課	山本様、小倉様、 安藤様、戸田様	谷本、陳

## 6. 自治体による従前からの取組

### ■ 重層的支援体制整備事業

#### (取組概要)

令和3年度から重層的支援体制整備事業を開始。「包括的相談支援事業」、「多機関協働事業」、「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」、「参加支援事業」、「地域づくり事業」にそれぞれ取り組んだ。

#### ・ 「包括的相談支援事業」

高齢、障がい、子ども、生活困窮の各対象分野の相談支援事業について、分野横断的な連携を進め、主訴に関連した分野外の相談についても、まずは相談を受け止め、関連する機関や必要な福祉サービスへのつなぎを行う。

市原市は令和3年度に福祉総合相談センター(直営)を設置し、令和4年度からは市内9か所の地域包括支援センター内に地区福祉総合相談センター(委託)を設置した。

#### ・ 「多機関協働事業」

重層的支援体制整備事業に関わる関係者の連携の円滑化を進めるなど、既存の相談支援機関をサポートし、市原市における包括的な支援体制を構築できるよう支援を行う。

多機関の関係者が一堂に集まる「相談機関連絡会」など、連携のための協議体を設置した。

#### ・ 「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」

支援につながることに拒否的な人など、必要な支援が届いていない人に支援を届けるため、継続的な関わりを持つために、信頼関係の構築に向けた丁寧な働きかけを行い、必要な支援を届ける。

#### ・ 「参加支援事業」

さまざまな要因から社会から孤立している方の社会とのつながりの回復や社会参加を支援する。

利用者本人のニーズや課題等を丁寧に把握し、地域の社会資源の間をコーディネートし、本人と支援メニューのマッチングを行う。また、新たに社会資源に働きかけ、既存の社会資源の拡充を図り、本人や世帯のニーズや状態に合った支援メニューを作り出す。

#### ・ 「地域づくり事業」

既存の地域づくり関係の事業の取組を活かしつつ、多様な地域活動が生れやすい環境整備を行うことを目的として、多様な「場」づくりとつなぎ・コーディネートを行う。

7. 試行的事業	
① 福祉関係者研修会の開催	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>名称: 市原市地域福祉関係者合同研修会</li> <li>日程: 令和6年9月19日(木)</li> <li>会場: 市原市市民会館 大ホール</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>「居場所」に関する理解度の向上</li> <li>本研修を契機として、市原市孤独・孤立対策PFへの多様な主体の参加を促進</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>例年は民生委員児童委員協議会全体研修として開催されている場を活用し本研修を実施したことで、居場所に関わる多様な主体が幅広く参加</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者数506名(行政16名 民生・児童委員311名 地区社協・小域NW等179名)</li> <li>約7割の民生児童委員の参加</li> </ul>

#### プログラム内容

- ・ 開会あいさつ(市原市長)
- ・ 基調講演「人と人、人と社会がつながる地域の居場所」  
(立命館大学 共通教育推進機構 准教授 小辻 寿規 氏)
- ・ 市の取り組み説明

等

#### 孤立対策推進法の概要

法律が成立した背景・目的を社会構造の変化を踏まえて解説。

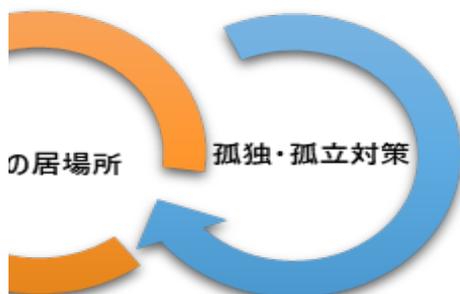
#### における居場所の役割

「まちづくり」と「福祉」の視点から、居場所機能を考える。(居場所の変遷)

#### 居場所の実践事例

多様な居場所が地域にどのような効果をもたらしているか、対象を限定しない包摂性の高い実践について豊富な事例を用いて説明。

所づくりと孤独・孤立対策の  
りが連動



▼地域福祉の実践者約500名が参加



## 取組の効果

- 孤独・孤立対策が社会の重要課題であることを幅広い関係者が認識し、それぞれの役割や機能を考える機会となった。
- 本研修会を契機に、多様な参加者の連携意識を醸成し、分野を超えた孤独・孤立対策PFの構築を目指す。

▼居場所に関わる多様な関係者が研修に参加



▼研修を通じて、市プラットフォームへの参加を促進

## 市原市孤独・孤立対策プラットフォーム

- 福祉分野にとどまらない多様な主体が参画
- コンセプトは、「社会課題を  
見える化、共有化して、  
みんなで解決を目指す場」

① 孤独・孤立対策 PF 会議の開催	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>名称:社会のつながりと居場所を考えるフォーラム</li> <li>日程:令和6年11月17日(日)13:00-16:30</li> <li>会場:夢ホール</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分野における人と人とのつながりづくりに資する取り組み同士の連携を促す。</li> <li>社会的なつながりづくりの重要性と、市原市の地域資源の多様性を市民、関係者等に広く周知し、気づきと変化を促す。</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い分野に関わる福祉団体を巻き込み、展示品を募った。</li> <li>参加者が自ら選択したテーマでテーブルワーク。ファシリテーター配置、ワークルール設定などの工夫で、円滑なワークを促した。</li> <li>講演及びワークの様子を録画し、後日オンラインでの動画配信を行う。</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>来場者数:69名(一般53名、行政関係者16名)</li> <li>フォーラム全体満足度:大変満足 45.1%、満足 52.9%</li> </ul>

### プログラム内容

- ・ 開会あいさつ(市原市長)
- ・ 基調講演「孤独・孤立化する社会とつながりづくり」  
(順天堂大学スポーツ健康科学部 前任准教授 松山 毅 氏)
- ・ 市の取組説明
- ・ グループワーク 3つのテーマの選択制で意見交換

#### ▼グループワークテーマ

**転居・退職による孤立**

夫 70歳      妻 65歳

親類なし 知人なし      公民館のサークル活動に参加

退職後、転居してきて数か月。  
夫は次第にこもりがちになってきている。

今の所属は **町会** です

**学校外の関係者が少ない**

市内の運動会役員      仕事を辞めた

小学校の運動会役員(専業主婦)      教員から退職中  
親子サークルに参加して交流が浅い

不登校の親同士でつながりはあるけれど  
自分たちだけでは苦しい

今のつながりは **当事者親同士** です

#### ▼グループワークの様子



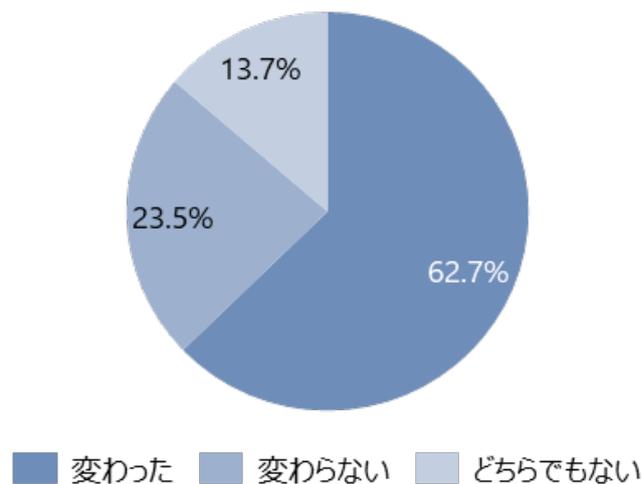
#### ▼PF関係団体の紹介



## アンケート結果

- 当日配布アンケートの回収数:35
- インターネットによる回答数:16
- グループワーク参加者67名中51名からの回収(回収率76.1%)
- 孤独孤立対策 PF への参画への関心度:興味あり86.3%

### ▼本フォーラムに参加して、 孤独・孤立対策についての意識や考えは変わったか



### ▼前問（左）の理由、またどう変化したか

- 市原市内にある関係団体の多さに驚きました。普段の会議はいつものメンバーという印象がありますが、新たなつながりができたことがとてもよかったですと感じます。
  - テーブルワークを通じて、立場を超えて一生活者としてアイデアを出し合うことができると感じました。
  - 良い意味で（自分の意識や考えは）変わらない。でも、孤独や孤立について考えている人が多くいることに感銘しました。
- 狙い通り市内の団体のネットワーク構築につながった

② ゆるサポ®研修の実施 「ゆるサポ」は高梨美代子氏の登録商標です。(商標登録 6005977)	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>名称:福祉の専門職のための 地域のつながり研修～ゆるサポ®～</li> <li>日程:令和7年2月19日(水)13:30-16:30</li> <li>会場:市原市市民会館 大会議室</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ゆるサポ®」をキーワードに、共生社会の実現に向けて地域にいる誰もが相手と自分を気にかけて、できる範囲で支え合う、ゆるやかにつながる関係づくりの意識を地域共通の価値として普及を図る。</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のつながりづくりの目的として「支援者支援」の視点を位置づけ、専門職の協力を求める。</li> <li>どのような支援の場面にも共通する、価値観・標準的な行動であって、認知症サポーター等の制度と屋上屋を架すことにならないよう留意する。</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援機関の専門職など17人が参加し、講義とグループワークを通じて、地域で実践可能な具体的な行動を学んだ。</li> </ul>

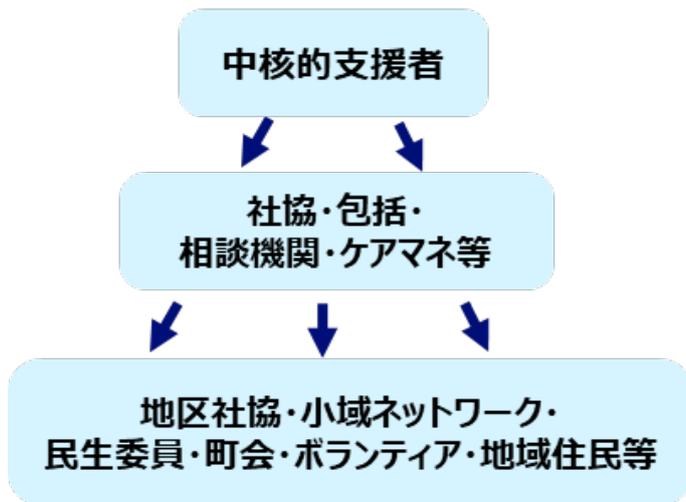
プログラム内容

- ・ 開会あいさつ
- ・ 基調講演「ゆるサポ®のすすめー支援体制を活かした支援ー」
- ・ グループワーク「普段のかかわりから考えよう」  
(講師:淑徳大学 総合福祉学部社会福祉学科 助教 高梨 美代子氏)

▼研修内容

地域のつながりを大切にする機運を醸成する「ゆるサポ®」の理念を学び、実践に活かしながら、周囲に伝達する。

▼地域共通の価値として理念を浸透



▼グループワークの様子



▼相談機関を中心にチラシを配布



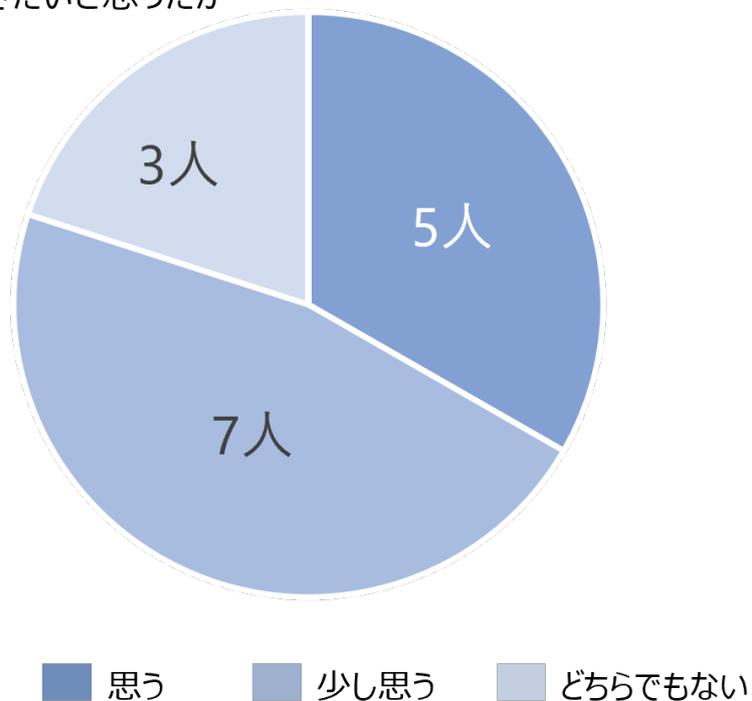
## アンケート

- 研修参加者17名中15名からの回収(回収率88.2%)
- 研修全体を通じて満足と回答した割合:80.0%

## 研修体験後の感想

- 相手が大切にしていることや好きなこと、相手の現状を否定しない強さを、相談を受ける側に必要な能力と感じました。
- 専門職の立場以外の立場からの発想がなくなってしまう現実を痛感しました。
- 何が出来るかを考えて行くためにも、今後可能な範囲で、研修に参加させていただきたいと思います。
- 今後もサポートできるシステムづくりを考えていきます。

## ▼研修に参加して、ゆるサポ®の理念を広めて いきたいと思ったか



③ 企画提案型研修委託事業の実施(作業部会)	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>名称:孤独・孤立対策PF会議作業部会(コミュニティラボ)</li> <li>日程:令和7年1月21日(火)10:00-12:00</li> <li>会場:いちほらウエルシアコミュニケーションセンター</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>市原市の孤独・孤立対策PFのコンセプトは「社会課題を可視化、共有化して、みんなで解決を目指す場」。</li> <li>こども食堂の「課題、アイデア、意見を可視化する」を通じて課題解決方法について検討し、こども未来キャラバンの実施内容に反映する。</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加メンバーの多様性を確保した。</li> <li>事前のヒアリングによりバルソナ設定、カスタマージャーニーを作成し、短時間で課題検討プロセスを体験できるように配慮した。</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンバー:18名(こども食堂運営団体、地域団体、民間企業、子育て支援団体、NPO 団体、お寺、社協、相談機関、大学、医療関係、行政)</li> <li>満足度:大変満足 37.5%、満足 62.5%</li> </ul>

プログラム内容

- ・ 開会あいさつ
- ・ WS の目的と流れの説明
- ・ シナリオとワークシートの説明
- ・ グループ討議
- ・ 議論結果の共有と感想の共有
- ・ 閉会

▼グループワークの様子

活動前		活動後	
立ち上げ	こども食堂開設	初期	発展
<ul style="list-style-type: none"> <li>スタッフ確保</li> <li>事業計画・資金確保</li> <li>安全衛生管理</li> <li>開設準備</li> <li>周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メニュー決定</li> <li>食材調達</li> <li>調理・食事提供</li> <li>記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕込み量の見込みがたえない</li> <li>運営者の持ち出し負担</li> <li>スタッフのやりくりが大変</li> <li>来てほしい人に情報届いているか不安</li> <li>物を保管する場所に困る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者が増えてア</li> <li>近所から苦情が</li> <li>物資を取り</li> <li>長期休暇</li> <li>心配が</li> </ul>
<p>課題</p>		<p>課題</p>	
<p>運営者の行動</p>		<p>運営者の感情</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>予約制を採用</li> <li>研修会等を検索</li> <li>補助金を検索</li> <li>知り合いに相談</li> <li>利用者を勧誘</li> <li>メンバー家で分散保管</li> <li>SNSを活用(顧客向)</li> <li>ポスティング</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>食材が余ってもったいない</li> <li>誰に相談すればいいの?</li> <li>急にスタッフが確保できない困る</li> <li>申請手続きが面倒...</li> <li>予約制にしたらこどもが来れな</li> </ul>	
<p>ありたい変化</p>		<p>ありたい変化</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>こどもにとって安心安全な居場所を創出する</li> <li>想いが尊重され自発的な活動が行える</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>需要と供給が大雑把に立てられる</li> <li>一人に負担が集中しない</li> <li>必要とする町が容易にアクセスできる</li> <li>補助金等</li> </ul>	




## 体験者の感想

- PF立ち上げにあたって、中心的に動いている方の話を聞けたので、解像度が上がりました。また、他団体の取り組みや普段の課題など垣間見えたので、実際のPFが動き出した際のイメージが湧きました。
- 仕組みやねらいはよく理解できました
- こども食堂側の悩み、繋がりなどの悩みなど企業側から見えにくい部分が知れたこと、問題点を直接働いてる方々から聞いたこと。
- 市や県、国の目指す姿の説明から、ペルソナを設定してディスカッションに繋げてくださった点がわかりやすい理由だと思います。またファシリテーターがとても上手だった為スムーズに理解できたのだと思います。
- こども食堂に関して、関わった事がなかったので、運営方法や困り事など知る事ができた。
- 素晴らしい取り組みだと思います。
- 今回とてもためになり、色々な方々の色々なやり方や悩みなど聞けたのでとても参考になりました。また参画したいです。
- 自分たちでコンタクトを取るのには限界があるのでコミュニケーションの場としてもとても有意義でした。
- 今回は普段の業務で関わることの少ないテーマだったので、学びが多くありました。今後も参加をしていければと感じました。
- 今回のPF会議には将来性を感じました。今は新総合計画の見直し時期で他の部署でも同様な取り組みが進められています。PFは市の分野横断でプロボノで地域のあらゆる主体を巻き込んでいくことを切に希望します。
- 様々な経験をお持ちの方と、課題について考える体験は、率直に面白かった。この先まだ見えないこともあるが、どのような方向に繋がっていくのが楽しみ。

⑤ 企画提案型研修委託事業の実施(こども未来キャラバン)	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>名称:こども未来キャラバン</li> <li>日程:令和7年3月22日(土)10:00-15:00</li> <li>会場:いちほら子ども未来館(we ほーる)</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域こども食堂の認知普及活動を目指すとともに、運営費の捻出など活動継続のための協力を仰ぐ一助とする。</li> <li>市原市、木更津市、袖ヶ浦市、君津市、富津市の隣接市間で防災協定を結ぶことにより今後の災害に備え、防災意識を高める。</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演で災害時にこども食堂と地域の人々でできることを考えることを促した。</li> <li>映像記録を行った。</li> <li>飲食出店では、親子が喜ぶものを商品とした。</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>来場人数:約 800人(内 大人:300人、子ども:500人)</li> </ul>

### プログラム内容

- いちほら子ども未来館1F
  - 10:00-15:00 飲食出店(屋外)、ワークショップ(屋内)開催
- いちほら子ども未来館3F
  - 10:00-11:00 防災締結式・トークセッション  
(講師:一般社団法人 四番隊 代表理事 伊藤 純氏)
  - 12:00-15:00 企業 PR ブース



◎五市の子ども食堂による屋外飲食出店



◎協賛企業・団体 パネル展示



◎五市の子ども食堂による屋内ワークショップ



◎よんさんによる講演会